

令和6年度 北海道函館聾学校グランドデザイン

目指す子ども像（校訓）

- 広い心で 助け合う子ども（徳育・協働）
- よく考えて 学ぶ子ども（知育）
- 元気で たくましい子ども（体育）

10年後、20年後の函館聾学校

学校教育目標実現への取組

積極的なCSの取組

創立130年に向けた取組

北聴研【函館大会】への取組

120年目に植樹した桜の成長

創立130周年以降の本校の姿

幼児児童生徒の実態

- ・一人一人の実態に応じた学習を支える言語力（生活言語及び学習言語）を身に付ける必要がある。
- ・豊かな経験に基づいた知識を身に付け、活用する力を身に付ける必要がある。
- ・具体的思考を積み重ね、抽象的思考を深めようとする力を身に付ける必要がある。
- ・判断力や自己決定力を身に付ける必要がある。

学校教育目標

- すすんで知識・技能を磨き、課題を解決する子どもを育てる。（知識・技能）
- よく考え、判断し、適切に表現する子どもを育てる。（思考力・判断力・表現力）
- すすんで学び、たくましく生きる、心豊かな子どもを育てる。（学びに向かう力・人間性等）

目指す教師像

- 幼児児童生徒の気持ちを大切に、必要な配慮に対して寄り添える教師
- 教育的愛情をもち、幼児児童生徒の可能性を追求する教師
- 豊かな人間性と誠実さをもち、信頼される教師
- 創造性あふれ、前向きに挑戦しようとする教師
- 専門性や指導力向上のため、常に学び続ける教師（授業改善のためのICT技術を含）
- 互いに支え合い、組織的・計画的に業務を推進する教師

教職員
一人一人が
全員で

【協働する教職員】

本校の目指す学校像

- (1) 子どもが進んで学びたい学校
- (2) 保護者が安心して通わせたい学校
- (3) 教職員が働きたい学校
- (4) 地域の方々が寄り添いたい学校

令和6年度の重点

- ・教職員の指導技術と専門性の向上を図る研修を充実する。
- ・「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせる教育活動を推進する。
- ・言語指導・教科指導を充実させ、確かな学力の形成を図る。
- ・コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、教育の質の向上に取り組む。
- ・教育的効果を高めるため、ICTを活用した授業実践を充実する。
- ・安全・安心な教育環境づくりと教育活動を充実する。
- ・質の高い教育活動と効率的な働き方を実現する。

昨年度の課題

- ・集団を確保しながら実態差のある幼児児童生徒の指導
- ・幼・小・中学部の一貫性のある指導
- ・ICTを活用した教育の一層の推進
- ・コミュニティスクールの仕組みやボランティアバンクを活用した教育活動の推進
- ・より一層の専門性向上

育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）

学部	すすんで知識・技能を磨き、課題を解決する子ども	よく考え、判断し、適切に表現する子ども	すすんで学び、たくましく生きる、心豊かな子ども
乳幼児相談室	・身の回りのものや自然、玩具や本を見たり触れたりして遊び、興味・関心を広げる。 ・身近な音楽やリズムを楽しみ、自由に身体を動かす。	・生活や遊びの中で、身近な人たちの会話に触れ、幾つかの言葉が分かる。 ・身近な大人と声や身振りなどを使ったやりとりを通して、声や幾つかの言葉を楽しんで使い始める。	・生活や遊びの中で、身近な人たちにあやしてもらったり、遊んでもらったりする。 ・表情や眼差し、触れ合いで、身近な大人との共感的理解を高める。
幼稚部	・経験や興味・関心の幅を広げるとともに、コミュニケーションの基礎的な力を育てる。	・好奇心や探究心を大切にするとともに、豊かな感性や表現する力を養う。	・身近な人や自然とのかかわりを大切に、豊かな心情や道徳性の芽生えを培う。
小学部	・学んだことをつなげて考えたり他の場面で活用したりすることができる子どもを育てる。	・自分の力で考え、他者に配慮しながら伝え合うことができる子どもを育てる。	・将来の社会参加に向けて自ら考え取り組むことができる子どもを育てる。
中学部	・生徒の実態に合わせた計画を立て、取組の中で主体的に課題を解決できるように努める。	・生徒の実態に応じたコミュニケーション手段を用い、言語力の充実を図る。	・学年・教科間・地域のつながりを意識した指導を計画し、横断的・総合的な学習活動の充実を図る。

指導体制の充実（実施するために何が必要か）

- ・地域資源を活用した体験学習と外部人材を活用した教育活動の推進

資質・能力の育成に向けた具体的な取組（何を学ぶか・どのように学ぶか・どのように支援するか）

取組事項	学部	すすんで知識・技能を磨き、課題を解決する子ども	よく考え、判断し、適切に表現する子ども	すすんで学び、たくましく生きる、心豊かな子ども	
(例)	乳幼児相談室	・聞こえの状態、個々の発達段階に合わせた、活動や教材を提供する。 ・運動・感覚機能への働き掛けを行う。	・教材や活動内容について、興味・関心を活かすとともに、個々の状態に合わせて柔軟に提供する。 ・個々の聞こえや、発声、教材の程度に合わせて、視覚的な教材の種類や量などを調整する。 ・保護者のニーズに合わせ、保護者と協働する。	・身近な大人とのアイコンタクトなどの共感的理解を広げる環境や活動を提供する。 ・身の回りのものや自然、実物に触れたり、安心して親子で活動に取り組めたりできるような環境や活動を提供する。	
	幼稚部	・安心して活動に取り組める環境づくりと保護者との連携に努める。 ・子どもの良さや可能性などを把握しながら活動を改善し、計画的に展開する。 ・見通しをもって活動できるように視覚的教材やICTを効果的に用いる。	・子どもが自分の気付きや考えを取り入れた活動ができるように工夫する。 ・心を動かす実体験を通して、自ら表現したいという気持ちを高める。 ・表現活動や絵本の読み聞かせなどの充実を図る。	・成功体験や称賛される体験を積み重ねていくことができる活動の工夫に努める。 ・保育園や小中学部との交流、屋外遊びや散歩などを通して、身近な人や自然とのかかわりの場を広げる。	
	小学部	・主観的・客観的・共感的な実態把握を基に適切な課題設定を行う。 ・子どもの興味や関心を引き出し、分かる授業を展開する。	・生活体験や自然体験などの体験活動の機会を豊かにする。 ・ICTを活用した学習活動の充実を図る。	・多様性を尊重し、互いのよさを生かして協働する活動や指導の工夫に努める。 ・地域等の人的・物的資源を活用したりろう・難聴者とかかわる活動を取り入れたりする。	
	中学部	・安心して学習に取り組める環境づくりに努める。 ・生徒の指導目標を明確にして授業を行い、必要に応じて指導内容の精選や改善を図る。 ・デジタル教科書やタブレット等の機器を有効に活用し、指導の効果を高める。	・状況に応じた話し方や態度を身に付けさせる。 ・経験したことや伝えたいことを文章や資料にまとめ、相手に伝える力を身に付けさせる。 ・聴覚口話法のみならず、指文字、手話、文字、ICT機器等を併用しながらかわるようになる。	・主体的に取り組めるよう見通しを持たせ、学年・教科間・地域のつながり意識しながら、実物・実体験・本物に触れさせる教育活動を推進する。 ・成功体験を積み重ねていく指導を心掛け、生徒の学習意欲の向上を図るようにする。 ・ICT教育を活用し、生徒の学習への興味・関心を高め、学びに向かう力を身に付けさせる。	
評価指標	学校評価項目1ー（1）		*数値で標記	学校評価項目1ー（2）	*数値で標記